

豪徳寺輪読座

バジラ高橋が案内する

紅葉が残る初冬の坂東小京都・古河小旅行

自由参加・御家族、ご友人の参加可

費用:参加費・¥1,500+各自負担(旅費・見学科・食費)

たくさん歩きます・歩きやすい服装・シューズでおいでください

11月17日(日曜)

万葉集に「まくらがの許我(こが)」と歌われ
平安には怪物・鶴(ぬえ)退治の剛勇・源三位頼政領となった河港
中世に関東独立をめざした古河公方の戦いの拠点、
親鸞の最初の弟子・西念坊の拠点が移され
江戸時代には関東統治の要塞都市となる

日本陽明学を興した熊沢蕃山の蕃山堤・開国後の日本を構想した鷹見泉石の偉業を偲ぶ

まくらがの許
我の渡りのから
かじの

音高しもな寝な
へ児ゆえに

逢はずして行
かば惜しけむ

まくらがの許我
こぐ船に君も逢
はぬかも

白妙の衣の袖をまく
らがよ

海
人こぎ来見ゆ浪たつな
ゆめ

葛飾の真間の浦廻を漕
ぐ船の

船
人騒ぐ波立つらしも



関東水運の古代・中世=関東中央幹線:太白川 渡良瀬川と思川が太白川に合流する船港・古河→真間の浦(市川市)に至る

①古河散策の旅程＝7:15返子発：湘南新宿ラインに乗り→古河の街を堪能、最後は鯉の洗いと鰻の白焼で打ち上げ



出発：湘南新宿ライン：宇都宮行(日曜運行)に乗り
 返子：07:15発→鎌倉：07:09発→大船：07:16発→戸塚：07:21発→横浜：07:33発→武蔵小杉：07:45発→恵比寿：07:59発→渋谷：08:02発→新宿：08:08発→池袋：08:13発→浦和：08:32発→大宮：08:40発→古河：09:16
 9:40発：古河駅東口・茨急バス・古河市三和庁舎行・高野坪入口(9:49着)下車5分→十間道路を西に、河口歯科の看板を目印に南に入り、150mほど、左手に蕃山堤・蕃山溜の公園入口：関戸1373-1)蕃山堤をブラブラ



11:00:灯り屋(0280-98-2312:関戸1605-56)で早めランチ：¥1000前後
 11:59:茨急バス：高野坪入口より古河駅東口行→古河駅東口
 12:20:篆刻美術館(日本唯一の篆刻の博物館)
 →本町通り散策(永井路子邸ほか、明治・大正建築多い)
 13:00:頼政神社・水神宮
 →三国橋より渡良瀬川展望(下総国(茨城)、下野国(栃木)、武蔵国(埼玉)の三国を跨ぐ)



生井子華刻「游刃有餘」地「篆刻美術館」

13:30:西願寺(立ち寄り)
 14:00:古河歴史博物館、鷹見泉石記念館



鷹身泉石記念館 坂長

15:30:坂長(城下町遺構、ギャラリー)にて休憩(元両替商・酒問屋、店蔵は旧古河城文庫蔵を移築:国登録文化財)
 16:05:古河西口より朝日バス・境車庫線乗車→16:13:大堤駅下車、鮭延寺：鮭延秀綱・熊沢蕃山墓に詣でる(時間おせば、タクシー分乗で鮭延寺へ)
 16:57:(朝日バス：大堤駅より乗車→土日なければタクシー同乗)→17:23:古河西境車庫線乗車→17:08:古河西口着(時間おせば、タクシー分乗で、たみ屋直通)
 17:30:たみ屋0280-22-2751 ;古河市中心1-7-25)：鰻屋だが、鰻白焼3人に1枚、鯉の洗いを中心に打ち上げ。メはほろほろ鳥白湯スープ雑炊。：¥2000～¥3000
 帰路：20:09古河発、湘南新宿ライン大船行に乗り
 20:44:大宮着→21:12:池袋着→21:19:新宿着→21:24:渋谷着→21:25:恵比寿着→21:40:武蔵小杉着→21:52:横浜着→22:04大塚着→22:10:大船着



江戸時代の古河：古河城と城下町
 1633:大老・土井利勝入城→本丸に三重櫓・二の丸に御殿を造営
 1873:廃城令：建造物破却
 1910～25:渡良瀬川改修事業＝城跡消滅

②古河めぐり: 四つの物語＝旅の先々でバジラが解説

源頼政と古河公方



12世紀中頃、近衛天皇を悩ませる鶴を退治する源頼政と家来の猪早太

頼政神社＝頼政の首塚

古河の地は利根川・渡良瀬川が合流する氾濫原で、下野の開発領主下河辺氏が上総守・源頼政の支援によって開墾、鳥羽上皇の娘・暲子内親王に寄進され、下河辺行平は荘官に安堵された。治承4年(1180)、以仁王挙兵→源頼政、平氏に敗れて平等院鳳凰堂に自害(宇治橋合戦)→下河辺党の猪早太、頼政の命により、頼政の髑髏を首にかけて諸国行脚。古河の地に埋めた。1677年、古河藩主・土井利益が城内鎮護神として祀る。

鶴峯八幡宮: 中田1337:0280-23-3083

治承4年(1180)、源頼朝の命による下河辺行平の挙兵に、古河の鶴峯に軍利守護を祈願、頼朝の武運が開けた。頼朝は幕府を開き、富士川合戦に勝利。頼朝は鶴岡八幡宮の分霊、鶴岡八幡宮の守護神・丸山稻荷を古河の丘に勧請、鶴峯八幡宮とした(中田の丘陵に鶴峯八幡社)→2代鎌倉公方・足利氏満、親幕派・南朝派の豪族を討伐して関東独立を目指し、下河辺荘を自領に編入。3代鎌倉公方・成氏、関東管領・上杉憲忠を謀殺、関東独立のために転戦。幕府に出陣を命じられた駿河守護・今川範忠が鎌倉占拠。足利成氏は古河に移る途次、鶴峯八幡宮に祈願→古河公方は、永正9(1512)、北条



早雲に支配されたが、北条氏政・上杉謙信・武田信玄が関東をめぐって三つ巴の戦いをくり広げると、古河公方は関東統合の象徴として延命→秀吉時代に喜連川氏となり、明治に足利宗家として復活。



親鸞と西念坊



親鸞上人木像・阿弥陀如来像: 宗願寺

宗願寺＝古河御坊

親鸞の最初の弟子・西念坊が武蔵足立郡野田に一字を開き、親鸞の浄土真宗布教の拠点、長命寺となった。関東動乱に焼失し、1597年、了念が古河に宗願寺として再興、1720年、本願寺門跡兼帯所となり、古河御坊と称する。西念坊の父・信州高井郡井上城主井上盛長は、1268年、善光寺を焼き払い、善光寺方の連合軍に誅殺された。その子の貞親は無常を感じ、越後国府の国分寺に詣で、越後に流された親鸞に帰依、西念坊となる。井上氏の祖は平忠常の乱を平定した源頼信(関東源氏の祖)の三男、武蔵足立郡野田を領した頼季で、信州井上に移り、北部信州を平定しようとし、領主化した善光寺と対立した。親鸞が赦免された時、西念坊は足立郡野田(埼玉県旧浦和市)に一寺を建立。親鸞伝来の聖徳太子尊像を安置し、武州総道場(西念寺)として盛んになった。帰洛の途についた親鸞は西念坊に「関東に止まり有縁の衆生を化益すべし」と諭し、自刻の阿弥陀像と連座の御影を授けた。本願寺3世・覚如が関東の親鸞旧蹟を訪ねた時、西念坊は104歳にして健在、覚如は長命寺の寺号を授けた。

明治44年(1911)、田中正造が足尾銅山の鉱毒の被害を天皇に訴える請願書執筆のために宿泊している。



田中正造遺徳之贊碑

松平信之・忠之と熊沢蕃山



鮭延寺

鮭延寺と熊沢蕃山夫妻墓碑:

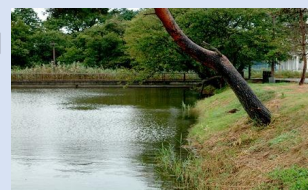
1600:直江兼続率いる上杉軍、最上氏の長谷堂城包囲、鮭延秀綱(さけのべひでつな)勇戦。
1622: 最上騒動に最上義俊改易、近江大森1万石に入封、鮭延秀綱、諸国を転々、寛永10年(1633)、佐倉藩主土井利勝に仕え主君の転封に従い、古河に移る。1633: 家臣、鮭延寺を建立、鮭延を葬る

陽明学者・熊沢蕃山: 治山・治水、藩民男女共同教育によって岡山藩を潤したが、

朱子学を用いて天下を統制する幕府、藩の旧守派によって、1657年、浪々の身となった。京都に私塾を開き、活動したが、京都所司代に追放され、明石藩主松平信之の預かりとなり、太山寺に幽閉、『集義外書』(山・河・森の整備を国土経営を説く)を著す。1679年、松平信之は大和郡山に転封、蕃山もこれに従った。蕃山は三輪神社を信仰、陽明学は日本精神に育つたとする『三輪物語』を執筆。自筆の原稿、陽明学書を三輪神社に預けた。1683年、初代古河藩主・大老の堀田正俊は幕府の財政改善に尽くし、蕃山の治国策に興味を抱いて招こうとしたが、幕閣の権力闘争を嫌った蕃山は断った。翌年、正俊は淀川改修工事の積算で対立した若年寄・稲葉正休に江戸城中で刺殺され、松平信之は古河に転封、老中に抜擢され、蕃山も古河に移った。蕃山は幕藩体制への批判を強め、国際貿易による財政再建、武士の屯田、治山治水策等を示す『大学惑問』を著した。翌年、松平信之が没し、忠之が藩主となり、蕃山は城下町の水害を防ぐ手立てを尽くし、古河城頼政曲輪に没し、鮭延寺に葬られた。松平忠之は幕府の圧迫を受け、1693年、幕府の使者の前で髪を落とし、改易となった。



熊沢蕃山

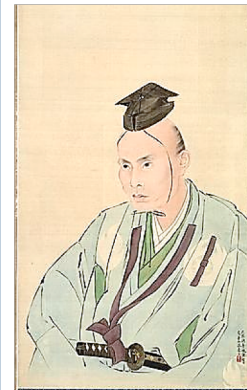


蕃山堤: 古河の関戸: 高野坪



熊沢蕃山墓: 鮭延寺内

土井利位(としつら)と鷹見泉石

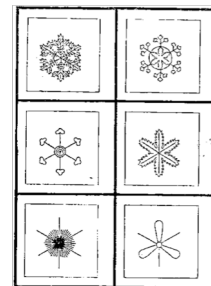


土井利位像



渡辺華山筆『鷹見泉石像』中谷宇吉郎が賞賛した『雪華図譜』を著した土井利位は三河刈谷藩主の四男に生まれ、1813年、古河藩主土井利厚の養子となり、1822年、古河藩主となった。天保5年(1834)、大阪城代となり、大塩平八郎の乱を平定。大潮召取に功績を挙げた鷹見泉石が江戸に大潮反札の報告書を持参し、大阪に戻る途中、三河田原藩家老・渡辺華山宅に立ち寄り、その時、華山は、今は国宝となっている「鷹見泉石像」を描いた。泉谷は、1804年、レザノフがエトロフに現れ、土井家がロシア外交担当となったため、世界の情報収集に努め、西欧事情に詳しい渡辺華山、川路聖謨、江川英龍、箕作省吾、砲術家の高島秋帆、地理学者の箕作省吾、遠近法研究の司馬江、ロシアから帰国した大黒屋光太夫、オランダのカピタン・スチュルレルらネットワーク、日本の将来を見据えた国策を策定しようとした。

1839年、土井利位は江戸本丸老中に就任。幕政に加わった。この間、天保の大飢饉を背景に西欧列強の来航が相次ぎ、大老水野忠邦は西欧列強との交渉に反対する勢力を抑え切れず、蛮社の獄が起こり、渡辺華山らを失った。その後も泉石の世界戦略研究続行→1853年、ペリー来航に提言書「愚意摘要」を幕府に上呈。日本開国が実現することになる。



土井利位『雪華図』